

(単元) 社会生活と法～消費者市民社会を目指し～

(本時のねらい)

自らの選択が社会や経済の在り方に影響を及ぼし得るものであることを自覚し, 自らの消費生活と公正かつ持続可能な社会の形成とを結びつけて思考・判断し, 積極的に参画する態度を養う。

(ICT 活用方法)

生徒に自分の意見を選択・判断をさせるために, 判断の基準になるような写真やデータを提示した。従来は口頭での指示やプリントによる説明であったが, グループワークの進め方や議論するテーマを提示することにより, 効率よく学習を進めることができた。

(本時の展開)

| 時間        | 学習活動   | 指導事項  | I C T活用方法   | 備考 |
|-----------|--|---|---|----|
| 導入<br>5分  | ※生徒の視点<br>前回の内容を振り返り, 本時の学習内容について確認する。   | ※教師の視点<br>契約や消費者問題について振り返り, 社会参加の在り方について学習することを確認する。  | 本時の目標を提示し, 学習目標を共有する。<br>前回までのポイントを提示しながら復習を進める。  |    |
| 展開<br>35分 | 前時の復習から, 情報の非対称性がもたらす問題について考える。<br><br>不当な契約や, 消費者問題に関する相談機関について確認する。<br><br>ゲノム編集食品の解禁について議論する。 | 問題に直面したときに自身の取るべき行動について考えさせる。<br><br>「社会への扉」(P.10)を活用し, 連絡先等を確認する。<br><br>推進派, 慎重派に分けて, その理由を考えさせる。 | 2枚の写真を提示し, その写真から得られる情報をもとに, 自身の立場を決める。<br><br>冊子を拡大表示し, 重要な項目にチェックを入れながら説明する。<br><br>ゲノム編集食品についての情報を提示し, その情報を見ながら自分の意見の根拠づけを行う。 |    |

|                   |   |   |                               |              |
|-------------------|---|---|-------------------------------|--------------|
|                   | <p>行動・相談することの意味を，消費者市民社会の実現の観点から考察し他者の意見を聞きながら，自分の考えを表現する。</p> <p>消費者市民社会の実現の過程を確認する。</p> | <p>消費者市民社会実現の過程をグループで考えさせ，発表させる。</p> <p>「社会への扉」(P.11)を活用して，守られるべきは消費者の生活であること再確認する。</p> | <p>冊子を拡大表示し，各班に役割分担を指示する。</p> |              |
| <p>まとめ<br/>5分</p> | <p>本時のまとめと単元を振り返る。</p>  | <p>これまでの学習内容をまとめる。</p>  | <p>本時のまとめを掲示し，振り返りの時間を作る。</p> | <p>※補足など</p> |

(授業の様子)



教材の投影方法



板書とICT

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

ICTで学習の進め方やねらい提示し可視化することで，生徒の意識を授業に向かわせることができた。板書とICTの組み合わせを工夫することにより，学習効果の更なる向上に努めたい。また生徒の意見や発言を拾い上げ，リアルタイムで提示することができれば，考えの共有，深化が図れるように思う。